2017年3月期　第2四半期　決算説明会

開催日：2016年11月7日（月）

2016年11月7日にアナリスト・機関投資家の方々を対象とした
「2017年3月期　第2四半期　決算説明会」を開催いたしました。
決算概要、業績予想、第9次中期経営計画（Challenge 1500）進捗について
説明いたしました。
内容につきましては、次ページ以降に掲載しておりますのでご覧ください。

2017年3月期 第2四半期 決算説明資料

2016年11月7日
サンワテクノス株式会社

本資料取扱い上の注意点

- この資料には、当社の将来についての計画や戦略、業績に関する予想見通しの記述が含まれています。

- これらの記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ経済や当社の関連する業界動向、新たな技術の進展等により変動することがあり得ます。

- 従いまして、実際の業績等が記載の予想数値と異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。

- 2017年3月期 第2四半期 決算概要
- 2017年3月期 業績予想
- 第9次中期経営計画(Challenge 1500)進捗報告

- 2017年3月期 第2四半期 決算概要
- 2017年3月期 業績予想
- 第9次中期経営計画(Challenge 1500)進捗報告

連結決算の概要について

・前年同期比で減収減益

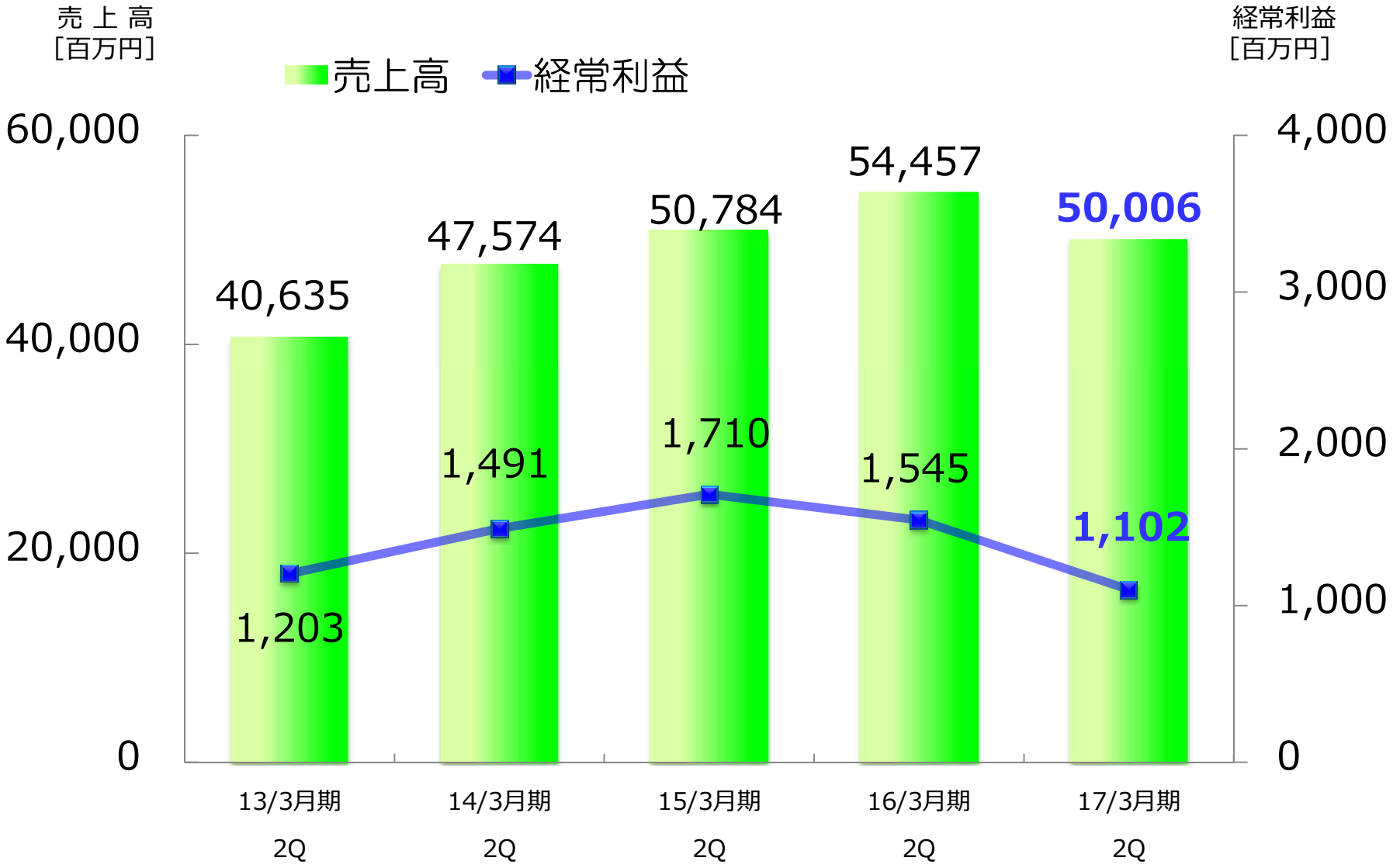
（単位：百万円）

	前第2四半期累計期間	当第2四半期累計期間	増減額	対前年同四半期増減率
売上高	54,457	50,006	△4,451	△8.2%
営業利益	1,417	1,082	△335	△23.6%
経常利益	1,545	1,102	△443	△28.7%
四半期純利益（※）	1,033	763	△270	△26.1%
1株当たり四半期純利益	71.97円	54.47円	△17.5円	△24.3%

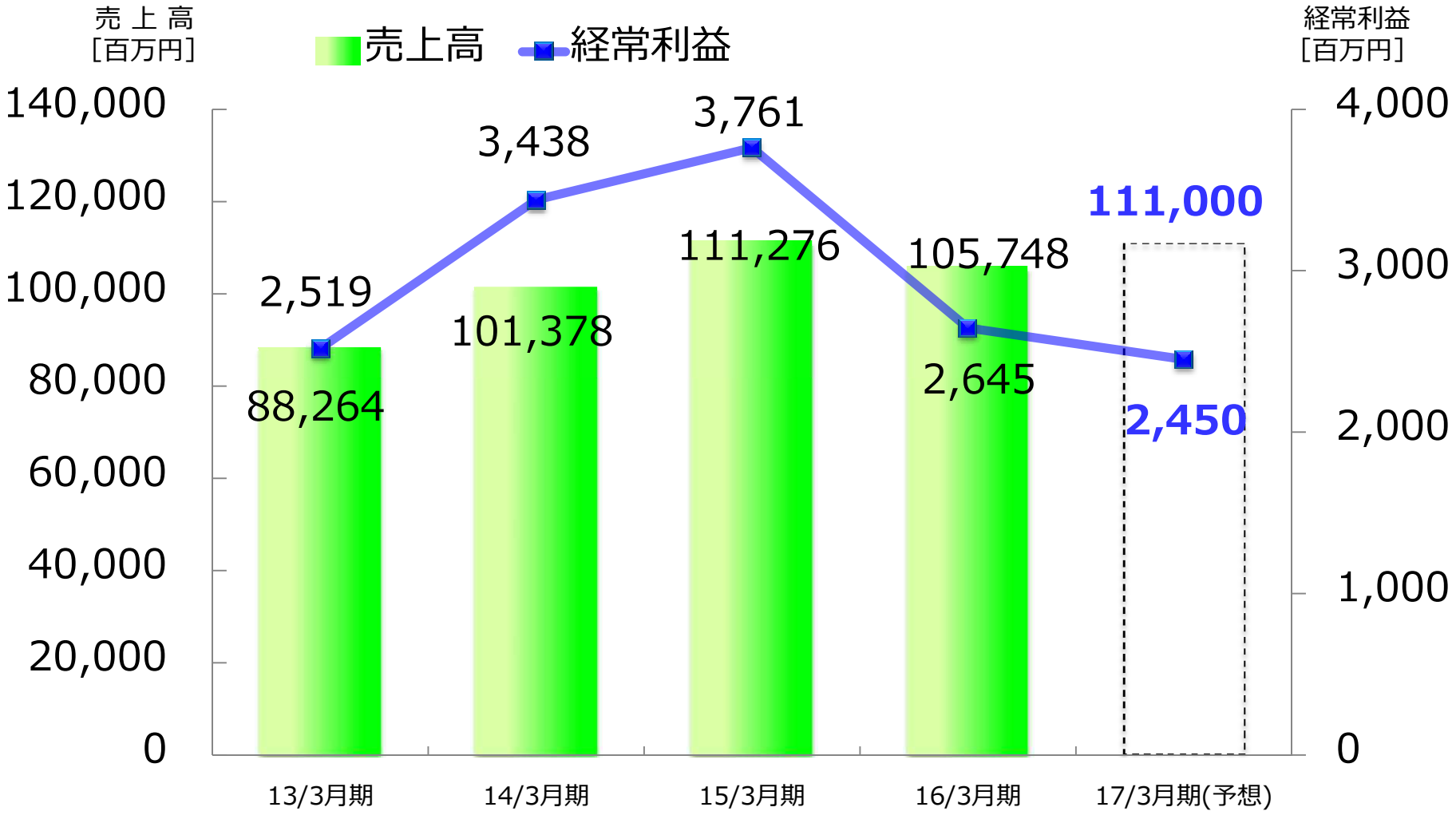
【連結決算の概要について】
自動車関連業界向けの売上高が増加したものの、アミューズメント向けの売上高が減少したこと及び急速な円高進行が業績に大きな影響を及ぼす状況となり減収減益となりました。

（※）親会社株主に帰属する四半期純利益

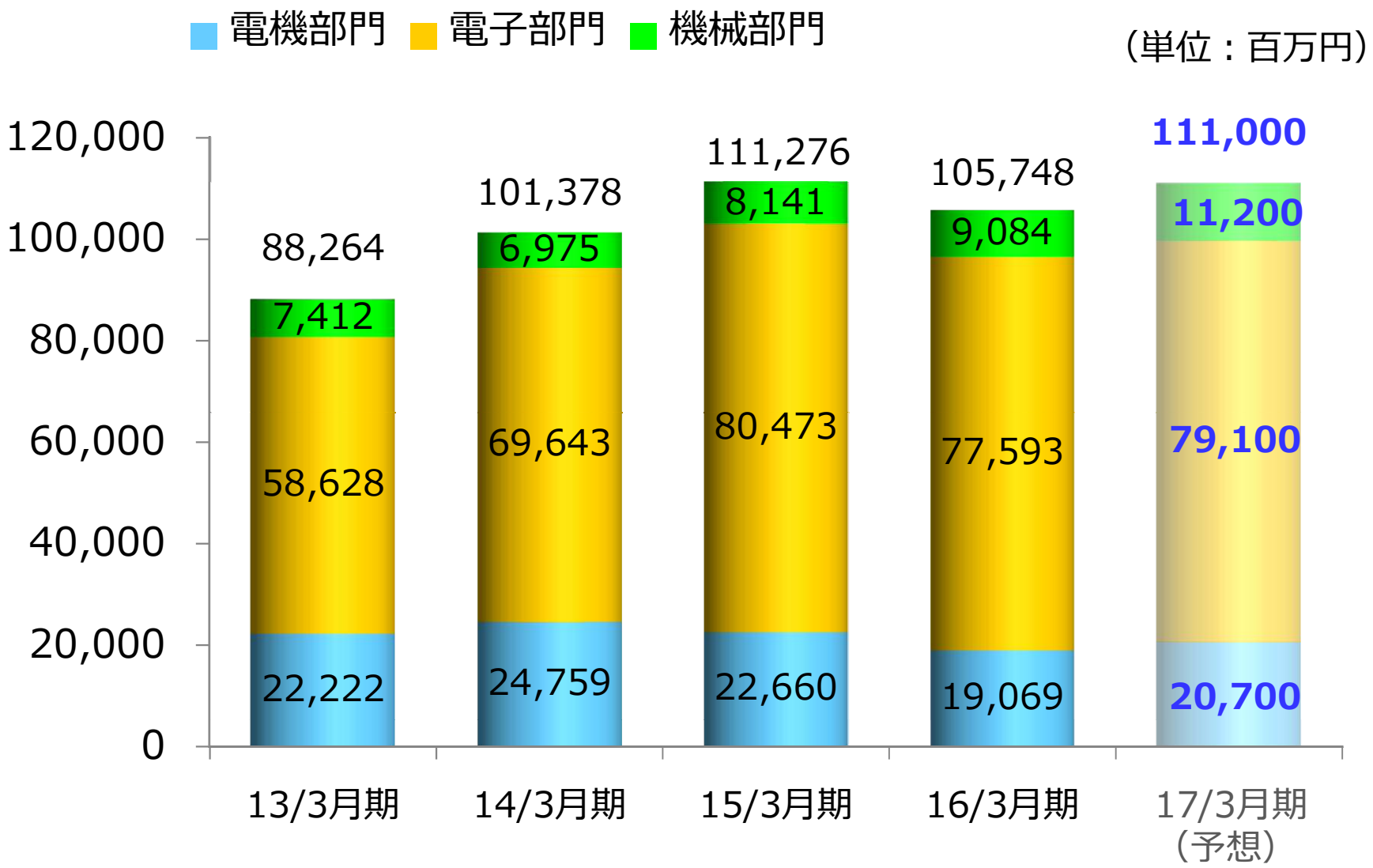
売上高及び経常利益 第２四半期累計推移（連結）



売上高及び経常利益推移（連結）



部門別 売上高推移表

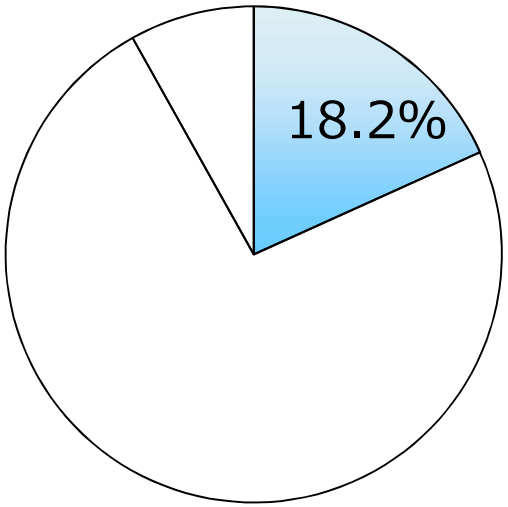

電機部門
電子部門
機械部門
(単位：百万円)
120,000
100,000
80,000
60,000
40,000
20,000
0
88,264
7,412
58,628
22,222
101,378
6,975
69,643
24,759
111,276
8,141
80,473
22,660
105,748
9,084
77,593
19,069
111,000
11,200
79,100
20,700
13/3月期
14/3月期
15/3月期
16/3月期
17/3月期
(予想)

部門別の概要【電機部門】

■売上高

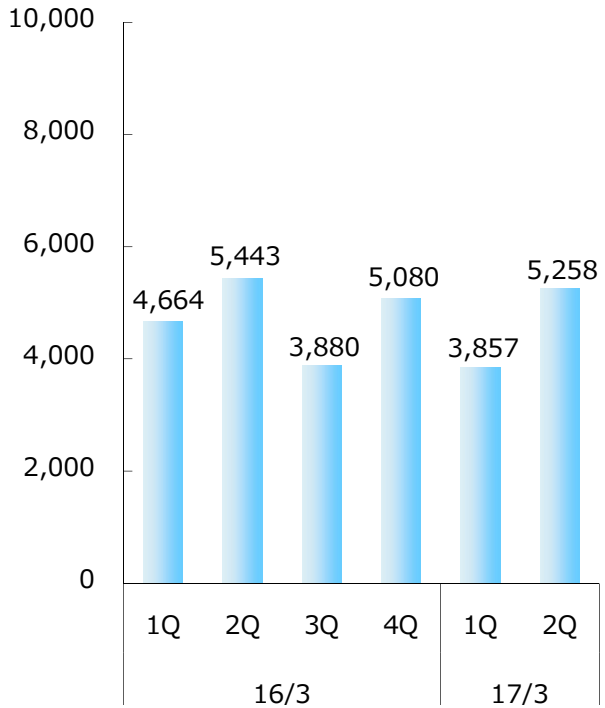
当第2四半期累計期間　9,115百万円（前期比　9.8%減）
当第2四半期会計期間　5,258百万円（前期比　3.4%減）

■売上高構成比率
（当第2四半期累計期間）

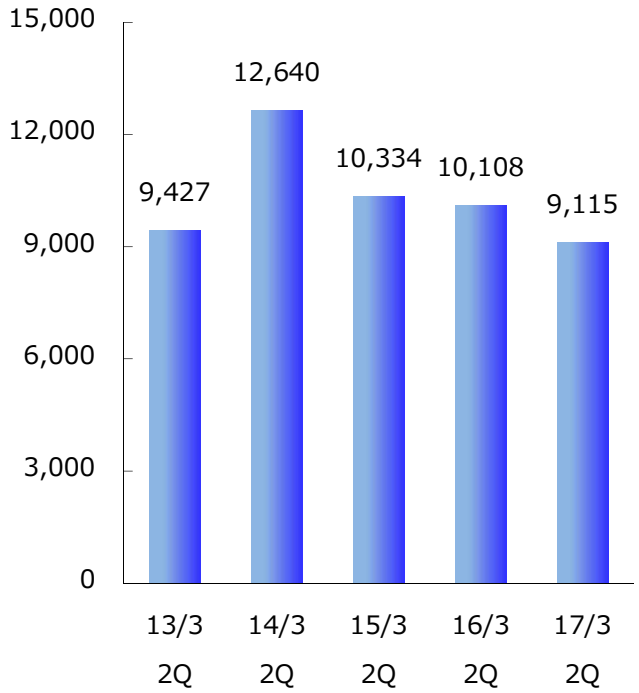


■売上高推移表（単位：百万円）

<四半期会計期間>



<四半期累計期間>



■point

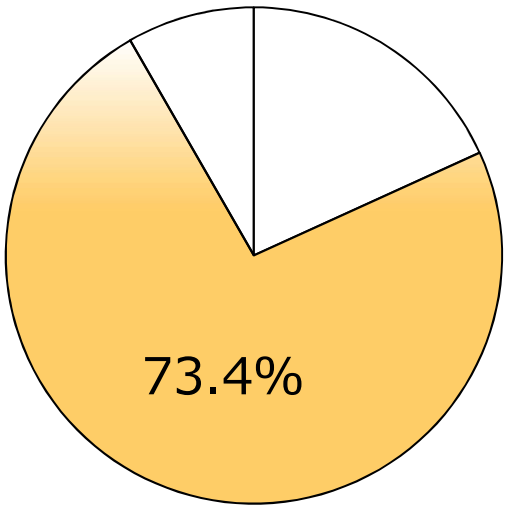
・新規需要の開拓等が貢献して産業機械業界向けのサーボモータ等の販売が増加
・太陽光発電システム向けの制御機器の販売は減少

部門別の概要【電子部門】

■売上高

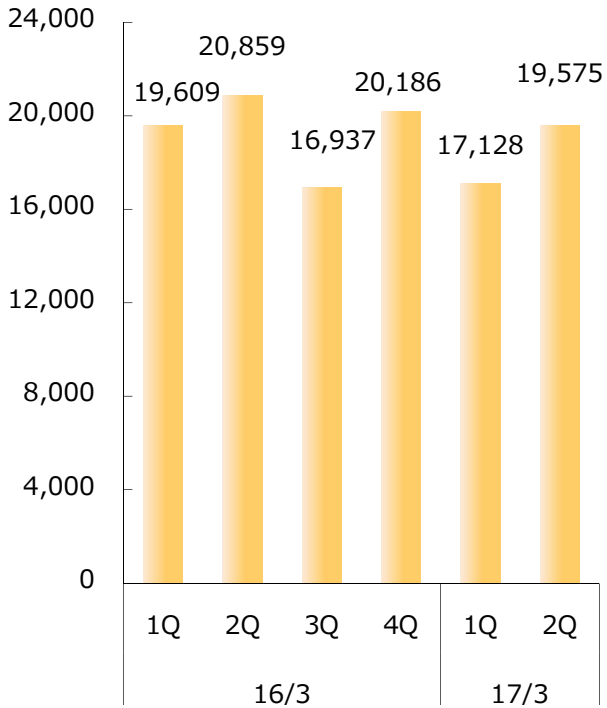
当第2四半期累計期間　36,704百万円（前期比　9.3%減）
当第2四半期会計期間　19,575百万円（前期比　6.2%減）

■売上高構成比率
（当第2四半期累計期間）

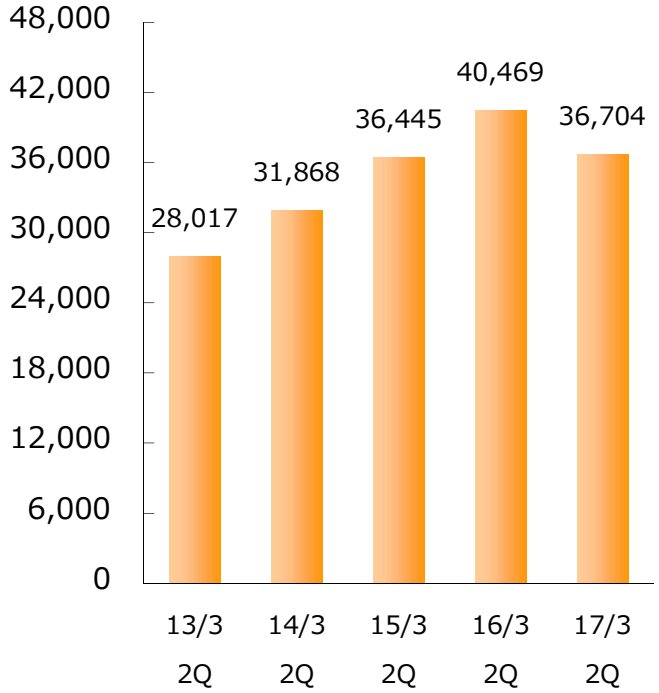


■売上高推移表（単位：百万円）

<四半期会計期間>



<四半期累計期間>



■point

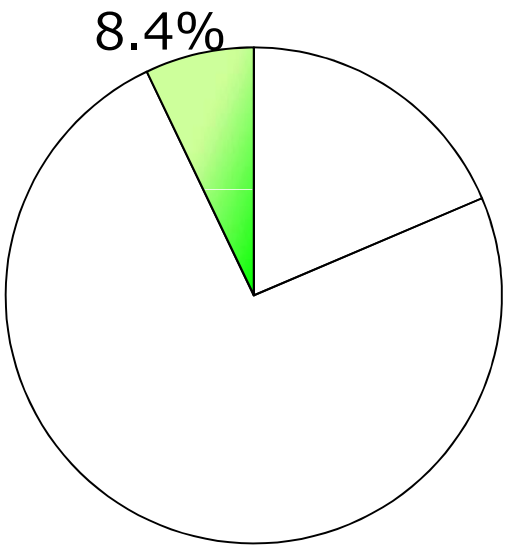
・自動車関連業界向けの電子部品の販売及び小売店舗向けのショーケース用LED照明の販売が増加
・アミューズメント向けの電子部品の販売が減少

部門別の概要【機械部門】

■売上高

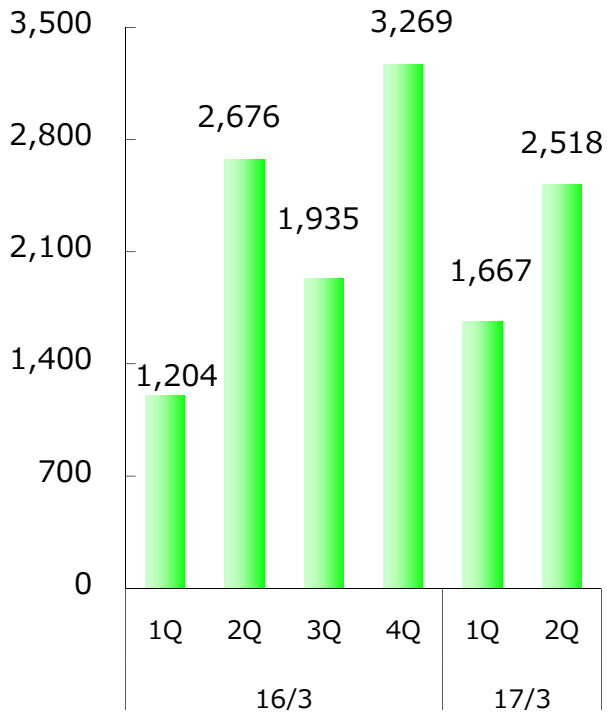
当第2四半期累計期間　4,186百万円（前期比　7.9%増）
当第2四半期会計期間　2,518百万円（前期比　5.9%減）

■売上高構成比率
（当第2四半期累計期間）

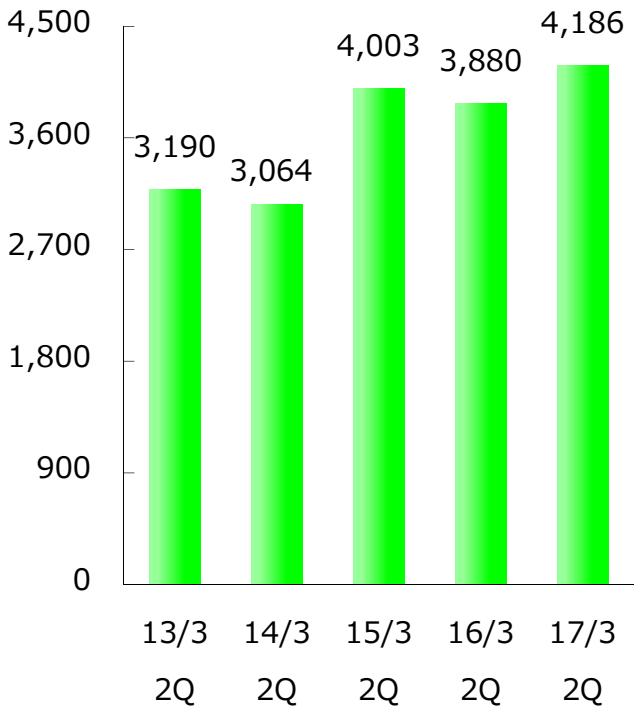


■売上高推移表　（単位：百万円）

<四半期会計期間>



<四半期累計期間>



■point

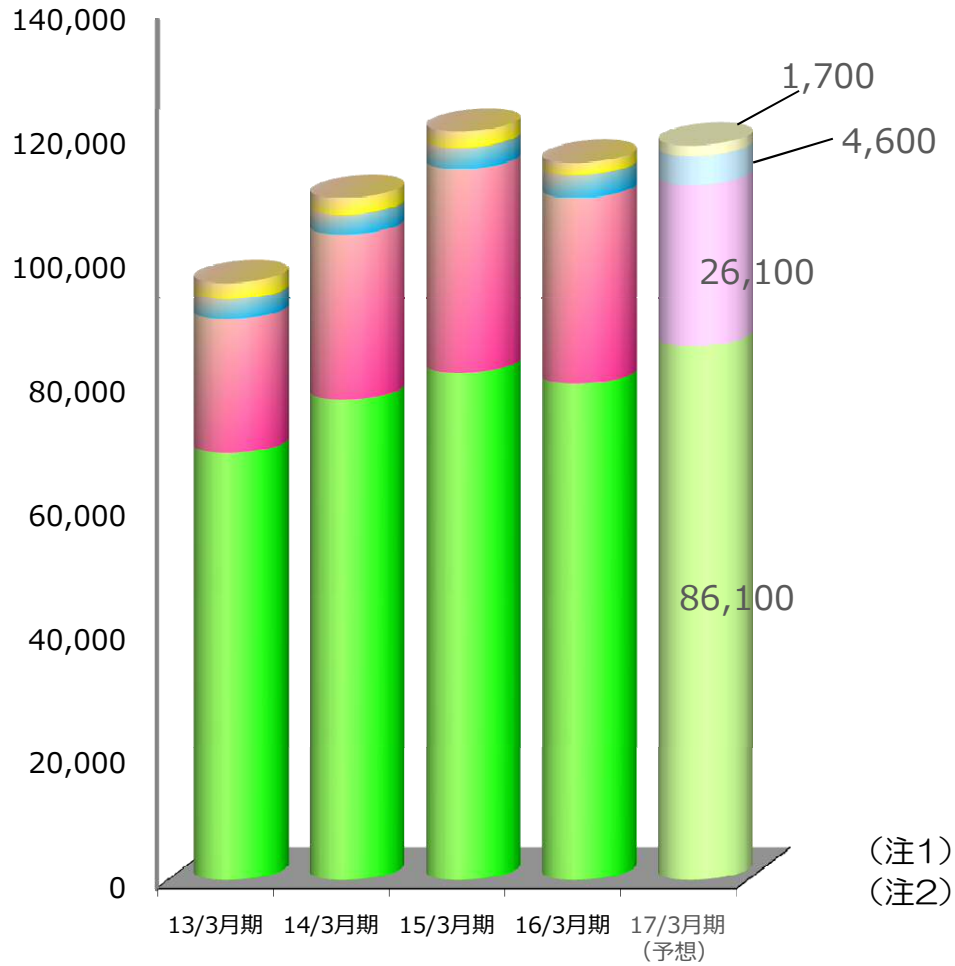
・液晶関連向け及び産業機械業界向けの生産設備の販売が増加

セグメントの概要

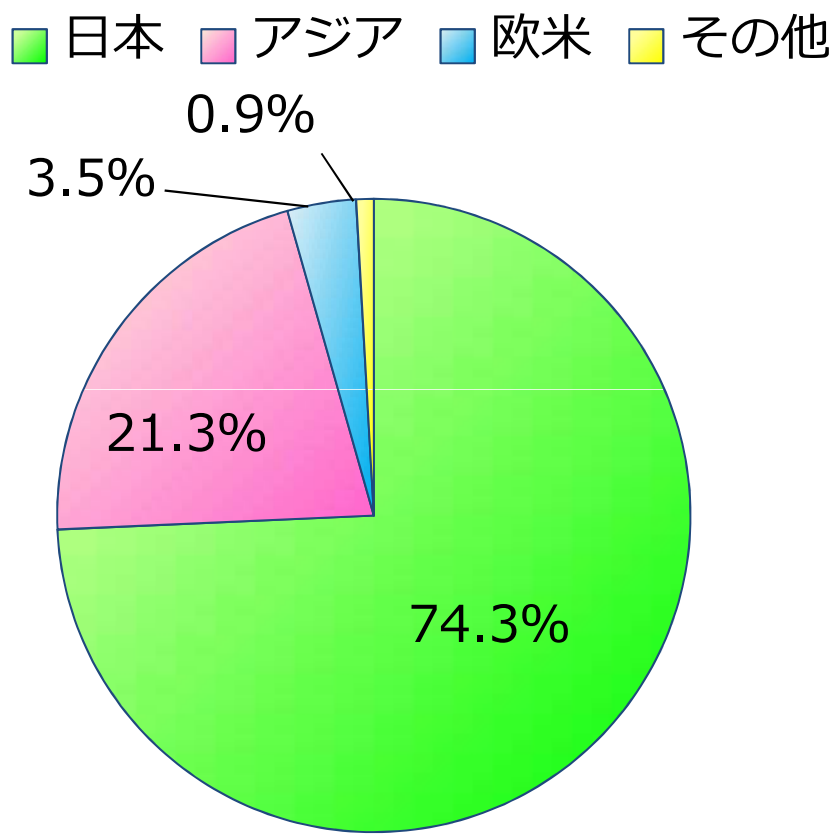
■売上高（注1）

日本　アジア　欧米　その他

（単位：百万円）



■売上高構成比率（17/3月期第2四半期）（注2）



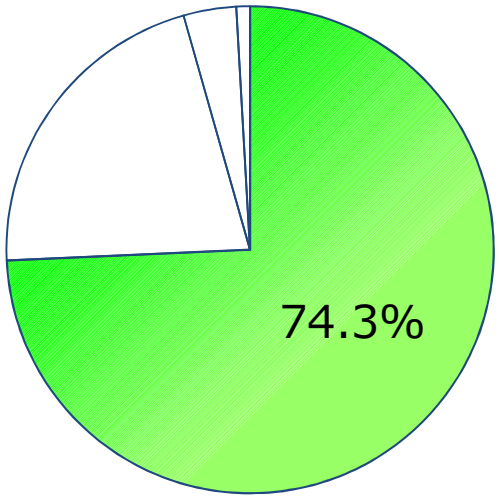
（注1）セグメント間の内部売上高又は振替高を含む売上高
（注2）外部顧客に対する売上高

セグメントの概要【日本】

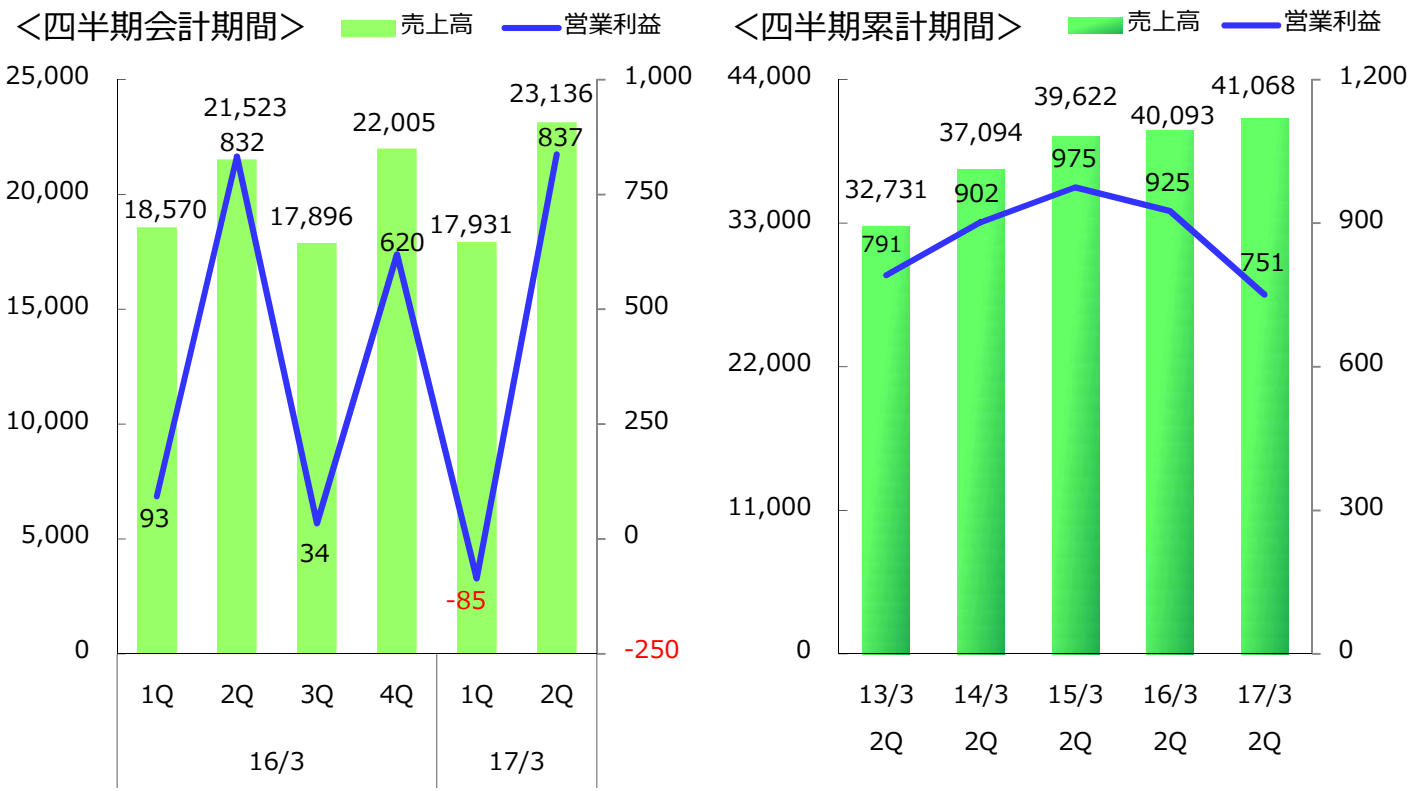
■売上高
当第2四半期累計期間　41,068百万円（前期比2.4%増）
当第2四半期会計期間　23,136百万円（前期比7.5%増）

■営業利益
751百万円（前期比 18.8%減）
837百万円（前期比　0.6%増）

■売上高構成比率（注2）
（当第2四半期累計期間）



■売上高・営業利益推移表（注１）（単位：百万円）



■point
・産業機械業界向けのサーボモータ等の販売、自動車関連業界向けの電子部品の販売、小売店舗向けのショーケース用LED照明の販売及び液晶関連業界向けの生産設備の販売が増加
・太陽光発電システム向けの制御機器の販売及びアミューズメント向けの電子部品の販売は減少

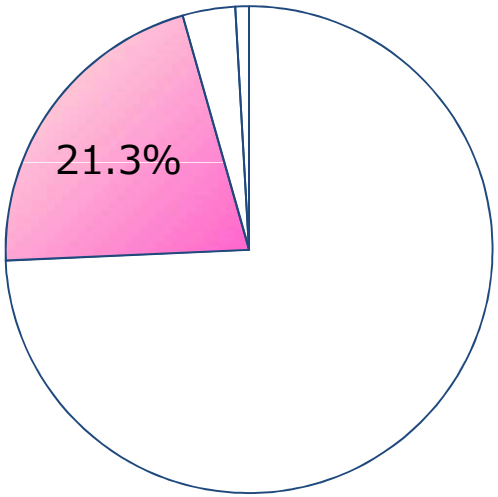
（注1）セグメント間の内部売上高又は振替高を含む売上高
（注2）外部顧客に対する売上高

セグメントの概要【アジア】

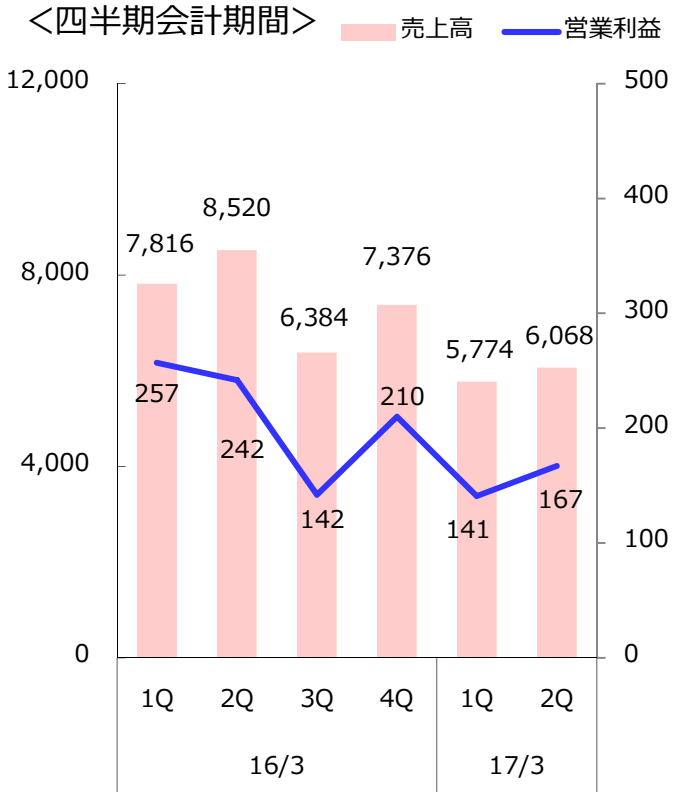
■売上高
当第2四半期累計期間　11,843百万円（前期比27.5%減）
当第2四半期会計期間　6,068百万円（前期比28.8%減）

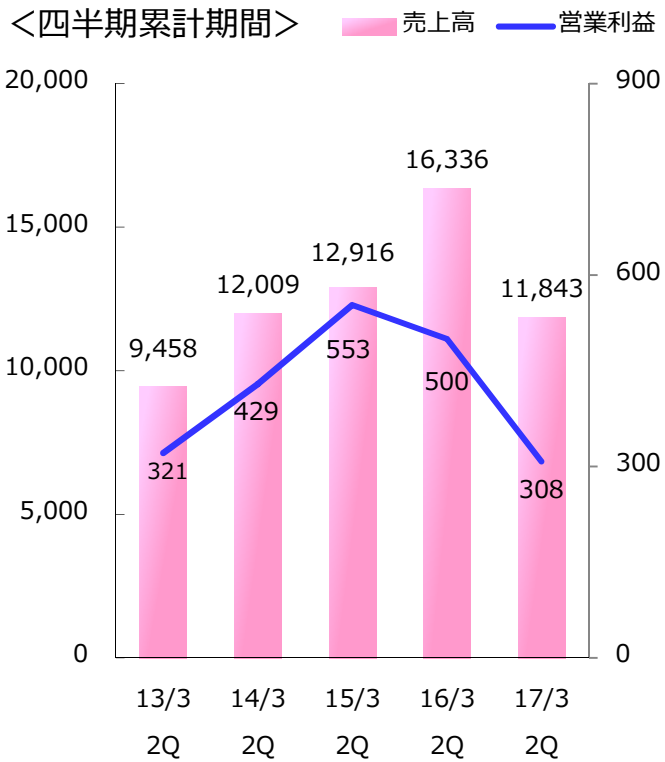
■営業利益
308百万円（前期比38.2%減）
167百万円（前期比31.2%減）

■売上高構成比率（注2）
（当第2四半期累計期間）



■売上高・営業利益推移表（注１）
（単位：百万円）





■point
・産業機械業界向けの電機品の販売が増加
・アミューズメント向け及び産業機械業界向けの電子部品の販売が減少

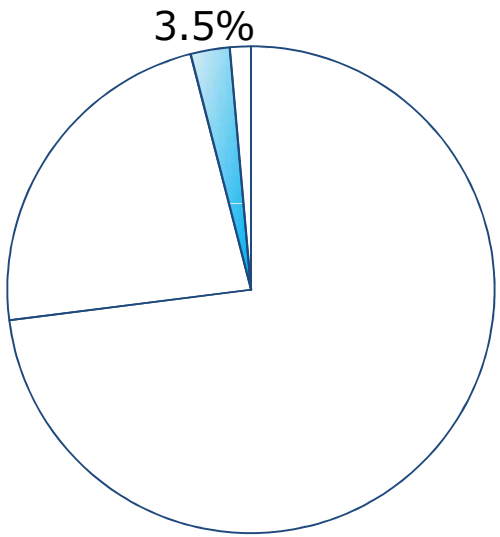
（注1）セグメント間の内部売上高又は振替高を含む売上高
（注2）外部顧客に対する売上高

セグメントの概要【欧米】

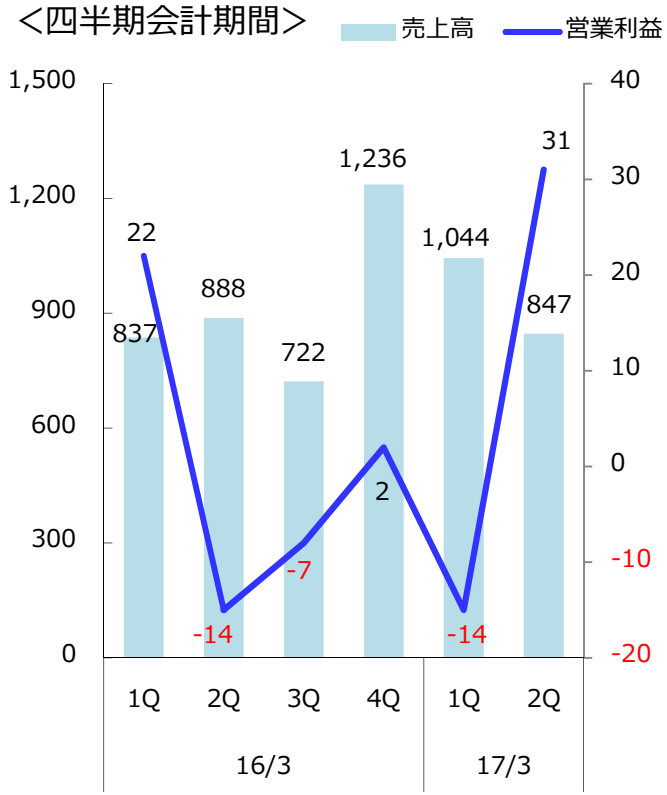
■売上高
当第2四半期累計期間　1,892百万円（前期比 9.7%増）
当第2四半期会計期間　847百万円（前期比 4.6%減）

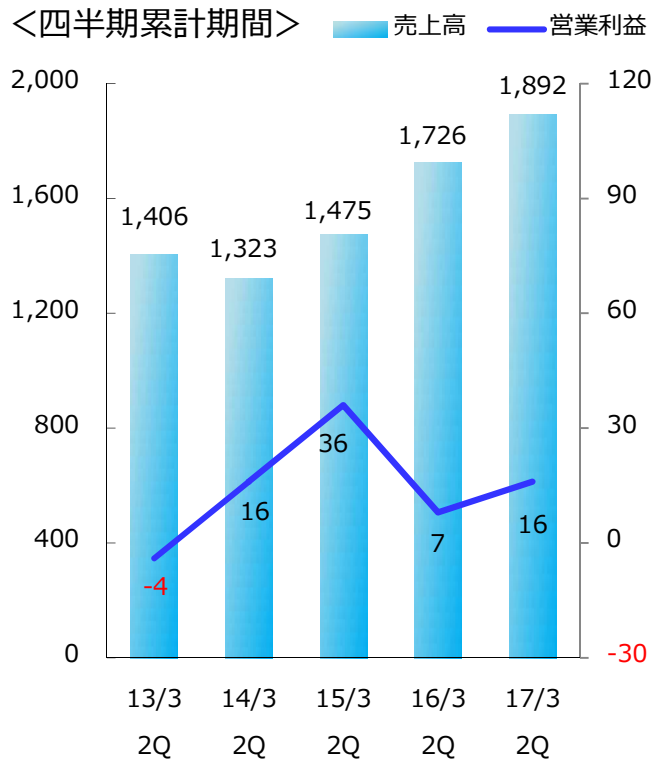
■営業利益
16百万円（前期比122.4%増）
31百万円（前年同期は営業利益△14百万円）

■売上高構成比率（注2）
（当第2四半期累計期間）



■売上高・営業利益推移表（注１）　（単位：百万円）



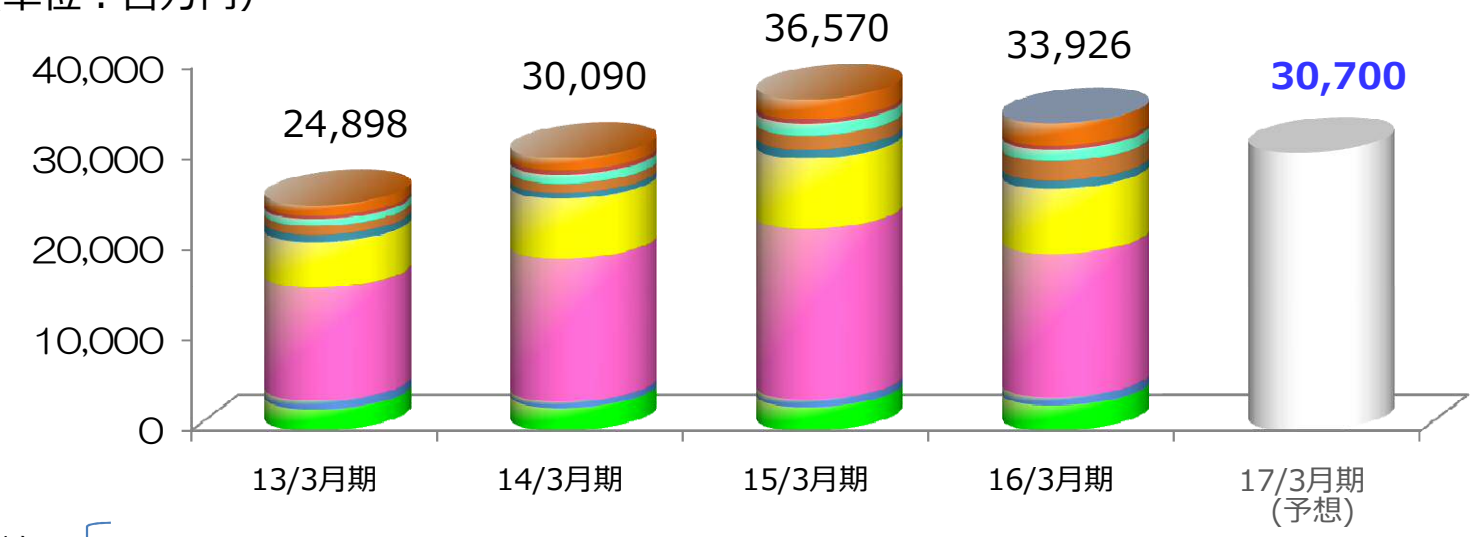


■point
・産業機械業界向けの生産設備の販売及びアミューズメント向けの電子部品の販売が増加

（注1）セグメント間の内部売上高又は振替高を含む売上高
（注2）外部顧客に対する売上高

海外現地法人売上高推移

（単位：百万円）



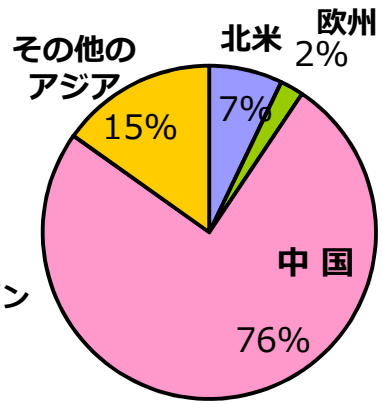
フィリピン
インドネシア
メキシコ
タイ
マレーシア
シンガポール
台湾
深圳
香港
上海
ヨーロッパ
アメリカ

（参考）主な通貨の為替レート	1米ドル	86.58円	105.39円	120.55円	120.61円	**100.00円**
	1ユーロ	114.71円	145.05円	146.54円	131.77円	**114.00円**
	1中国元	13.77円	17.29円	19.70円	18.57円	**15.40円**
海外事業の売上高比率		28.2 %	29.7 %	32.9 %	32.1 %	28 %

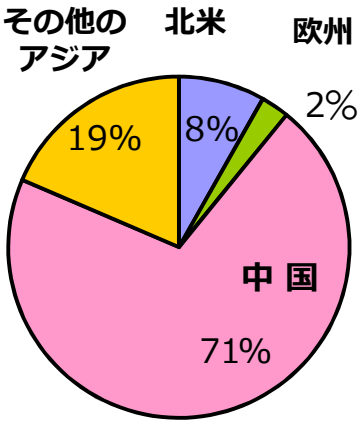
海外売上高構成

- 北米 ・・・アメリカ、メキシコ
- 欧州 ・・・ヨーロッパ
- 中国 ・・・上海、香港、深圳
- その他のアジア ・・・シンガポール、台湾、マレーシア、タイ インドネシア、フィリピン ベトナム

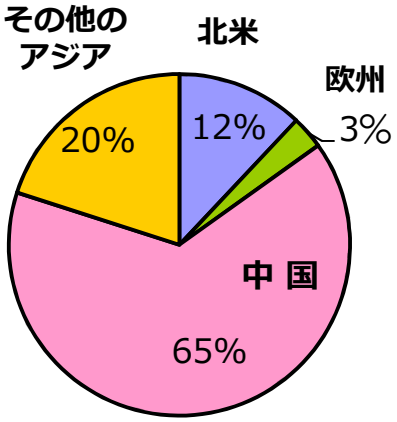
2015年3月期



2016年3月期



2017年3月期（予想）



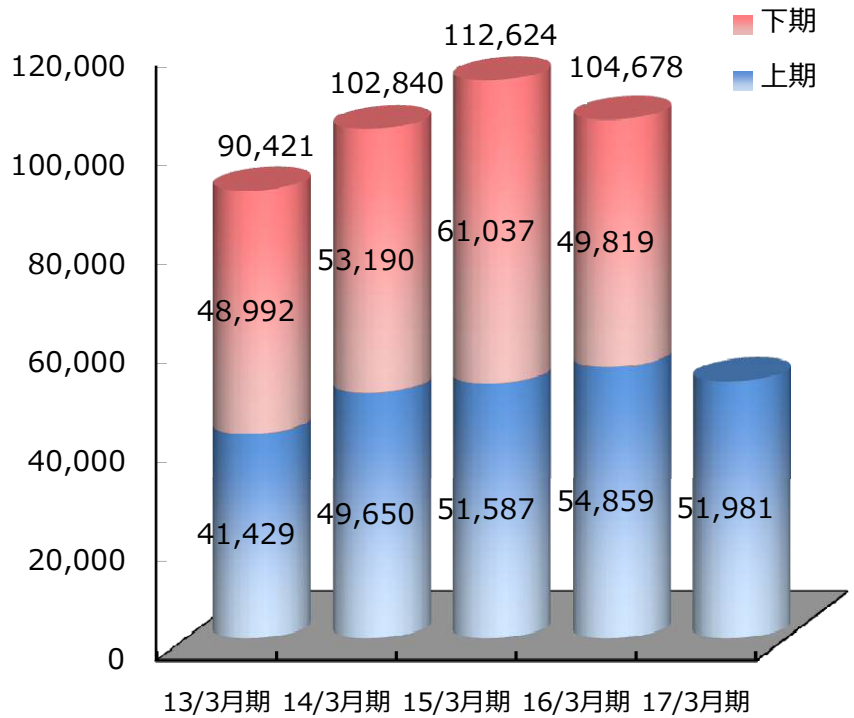
受注高・受注残高の推移（連結）

（単位：百万円）

	前第2四半期累計期間	当第2四半期累計期間	増減額	対前年同四半期増減率
受注高	54,859	51,981	△2,878	△5.2%
受注残高	18,058	18,562	504	2.8%

■受注高

（単位：百万円）



■受注残高

（単位：百万円）

2017年3月期第2四半期 （個別）業界別売上高・主要仕入先

得意先（業界）	対前年同期増減（矢印） 及び シェア（%）					
	2015/3 2Q		2016/3 2Q		2017/3 2Q	
ＦＡ・産業機器	↗	29.2%	↗	30.3%	→	29.1%
半導体・液晶	↗	10.4%	↘	9.0%	↗	10.6%
自動車	↗	6.8%	→	6.8%	↗	10.0%
情報・通信	↗	4.7%	↘	3.6%	→	3.6%
アミューズメント	↗	9.3%	→	9.3%	↘	2.8%
社会インフラ	↘	2.1%	↗	2.4%	↗	2.7%
ロボット・マウンター	↗	2.6%	↘	2.3%	↗	2.6%
工作機械	↗	1.9%	↗	2.3%	↘	1.8%
環境・エネルギー	↘	4.0%	↘	2.7%	↘	1.7%
医療機器	↗	1.4%	↗	1.6%	↘	1.4%
食品	↘	0.1%	↘	0.1%	↗	0.2%
セキュリティ	↗	0.2%	→	0.2%	↗	0.2%

（業界）は主要な得意先を業界別に分類（2016/4更新）

仕入先
㈱安川電機
オムロン㈱
リコーインダストリアルソリューションズ㈱
ミネベア㈱
TDKラムダ㈱
ケル㈱
フエニックス・コンタクト㈱
スタンレー電気㈱
JABIL CIRCUIT LTD.
オムロン直方㈱
その他の仕入先で約60%（約1,900社）

連結キャッシュ・フロー

・現金及び現金同等物は前連結会計年度末に比べ368百万円減少し、
当第２四半期連結会計期間末は5,506百万円となりました。

（単位：百万円）

	当期	主な要因
営業ＣＦ	812	増加要因：税金等調整前四半期純利益 仕入債務の増加 減少要因：売上債権の増加 たな卸資産の増加
投資ＣＦ	38	増加要因：投資有価証券の売却による収入
財務ＣＦ	△647	減少要因：自己株式の取得による支出 配当金の支払
現金及び現金同等物に係る換算差額	△571	―――
現金及び現金同等物四半期末残高	5,506	―――

（連結）貸借対照表比較表

（単位：百万円）

	前連結会計年度末	当第2四半期連結会計期間末	増減額	主な要因
資産合計	55,439	55,113	△325	受取手形及び売掛金の減少
負債合計	33,176	33,473	297	未払法人税等の増加
純資産合計	22,263	21,640	△623	為替換算調整勘定の減少

配当金の推移

期	中間	期末	年間	配当性向 連結
１３/３月期	１０円	１０円	２０円	16.8%
１４/３月期	１０円	１２円	２２円	13.5%
１５/３月期	１２円	１４円	２６円	15.1%
１６/３月期	１４円	１４円	２８円	23.8%
１７/３月期	１４円	１４円 (予想)	２８円 (予想)	23.8%

※当社は、株主の皆様に対して安定した配当を継続するとともに、業績の進展状況により増配や株式分割などを実施して行くことを基本方針としています。

- 2017年3月期 第2四半期 決算概要
- 2017年3月期 業績予想
- 第9次中期経営計画(Challenge 1500)進捗報告

2017年3月期 通期 業績予想について（連結）

（単位：百万円）

	2016年3月期 実績	2017年3月期 業績予想	対前期増減率
売　上　高	105,748	111,000	5.0%
営業利益	2,444	2,250	△8.0%
経常利益	2,645	2,450	△7.4%
当期純利益 （※）	1,690	1,650	△2.4%

【2017年3月期の見通し】
当社グループの関連しております産業用エレクトロニクス・メカトロニクス業界におきましては、中国経済減速や円高進行の影響を受けて産業機械業界は厳しい受注環境が続いており、先行きは不透明感が強くなってきております。一方で、半導体関連業界の見通しは回復が見込まれており、明るい兆しが現れております。
通期連結業績予想につきましては、第３四半期以降の想定為替レートを見直しした上で、直近の受注状況を踏まえた結果、2016年7月28日の公表値より修正しておりません。

第３四半期以降の想定為替レートは、1米ドル＝100円　1ユーロ＝114円　1中国元＝15.40円を前提としています。

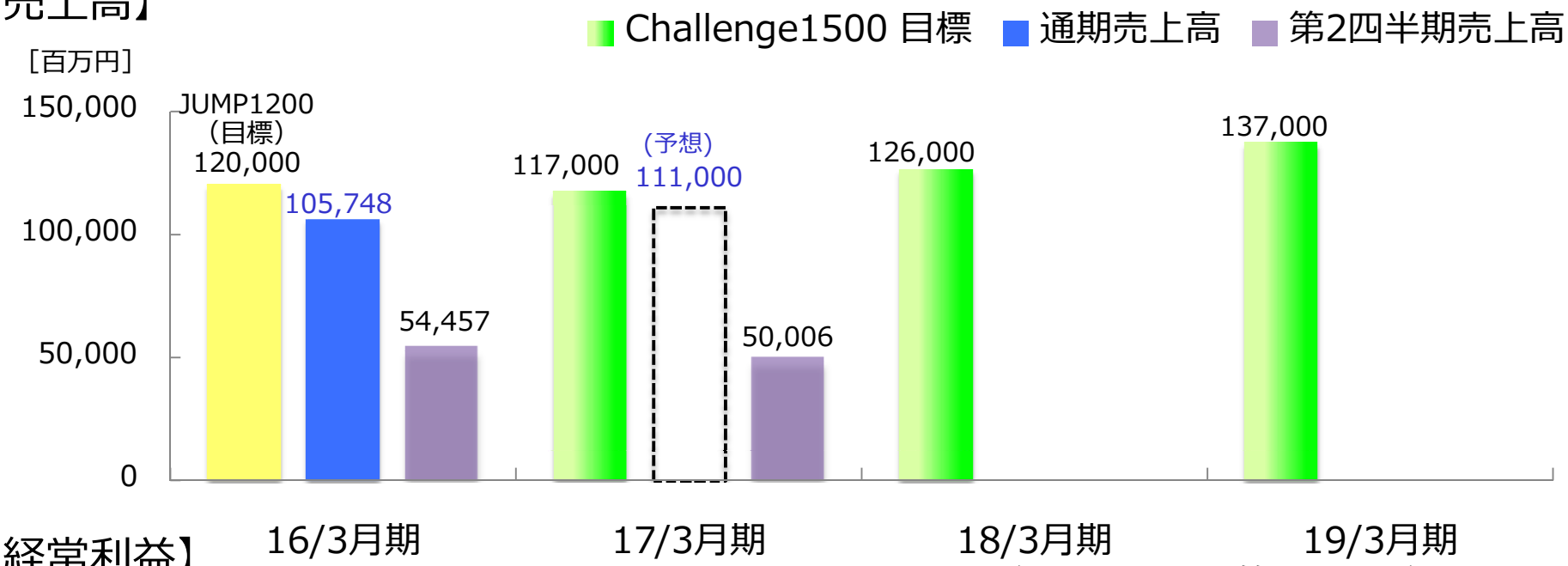
（※）親会社株主に帰属する当期純利益

- 2017年3月期 第2四半期 決算概要
- 2017年3月期 業績予想
- 第9次中期経営計画(Challenge 1500)進捗報告

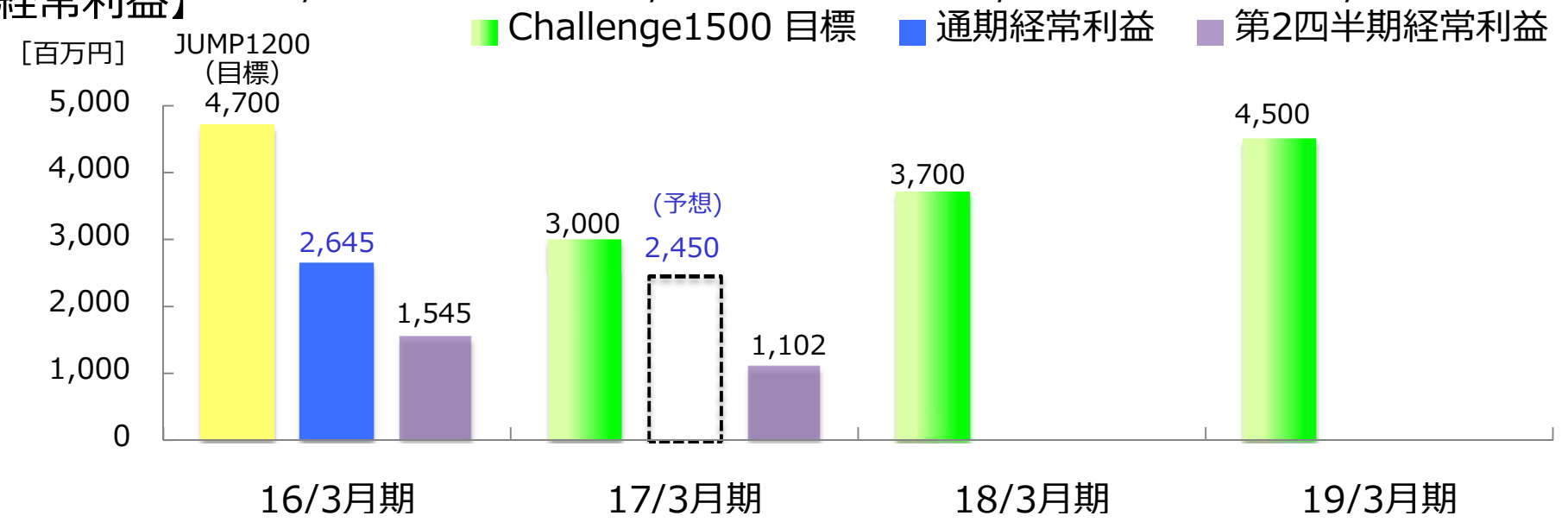
【第9次中期経営計画(Challenge1500)】

売上高及び経常利益推移（連結）

【売上高】



【経常利益】



Challenge 1500

事業戦略

電機・電子・機械分野の最新技術と
優れた製品情報を融合させたコアビジネスに、
ものづくりの先鋭化をサポートする
エンジニアリング力と
グローバル SCM ソリューションをプラスし、
グローバルに活躍する独立系技術商社として
新たな価値を生み出します。

システム、装置、部品・コンポーネント販売事業

最適なシステム、装置、部品、機器を供給しお客様の製品を支援します

- 主要メーカーの代理店販売を拡大 → さらなる協業関係を強化
- お客様のシーズ・ニーズの先取り → 新製品の発掘
- お客様へ最新技術情報を発信

エンジニアリング事業

自動化システム、省エネ製品を提案しお客様のものづくりを支援します

- ＩＣＴ技術を活用した「未来のものづくり」を目指す
- ロボットを活用した 自動化システムの提案
- 省エネや省電力を目指したシステム提案

グローバルＳＣＭソリューション事業

お客様の物流業務を包括的に受託し、最適ソリューションで資材調達から
生産、販売、リサイクルに至る一連の企業活動における物流合理化による
お客様のコア事業の拡大支援を実現します

- 生産移管などお客様のものづくりの支援（移管作業の効率運用）
- グローバルネットワークを駆使し、最適商流・調達を提案
- 現地調達の支援（現地メーカーの紹介と工場監査の支援）

エンジニアリング事業

自動化システム、省エネ製品を提案しお客様のものづくりを支援します

- ＩＣＴ技術を活用した「未来のものづくり」を目指す
- ロボットを活用した 自動化システムの提案
- 省エネや省電力を目指したシステム提案

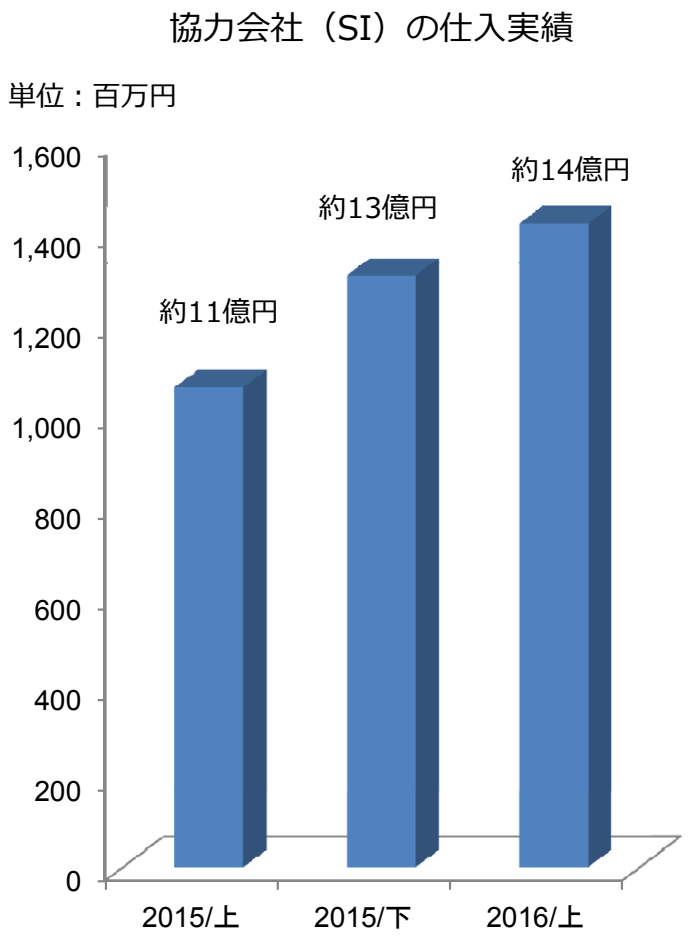
（トピックス）

2016年4月
フジプレアム株式会社との業務提携

（目的）
メカトロニクス事業においてロボットを使用した自動化システムの提案から設計、制作、設置、試運転まで、両社でお互いの強みを活かして協力し業務を進める

2016年10月
エンジニアリング部を本社に統合

（目的）
2016年1月に本社に電機・電子・機械部門を統合し、更に10月にエンジニアリング部も本社に統合したことにより、電機・電子・機械の総合力の発揮および当社独自の「エンジニアリング事業」を積極的に提案できる体制が整う



グローバルＳＣＭソリューション事業

お客様の物流業務を包括的に受託し、最適ソリューションで資材調達から生産、販売、リサイクルに至る一連の企業活動における物流合理化によるお客様のコア事業の拡大支援を実現します

- 生産移管などお客様のものづくりの支援（移管作業の効率運用）
- グローバルネットワークを駆使し、最適商流・調達を提案
- 現地調達の支援（現地メーカーの紹介と工場監査の支援）

2016年度商談規模　約25億円

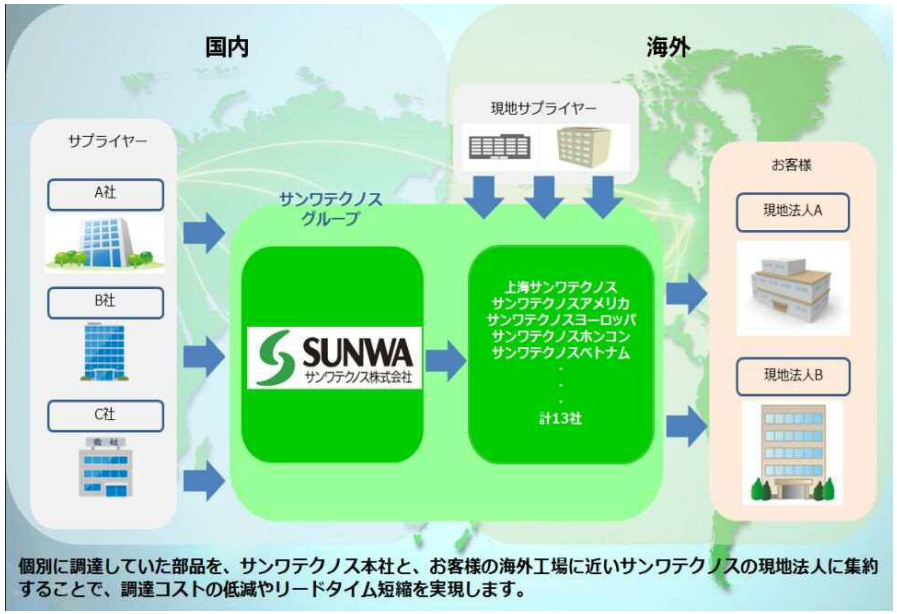
（商談事例）

◆大型印刷機用灯具ユニット組付け案件
部材を日本からタイへ（IN-OUT）

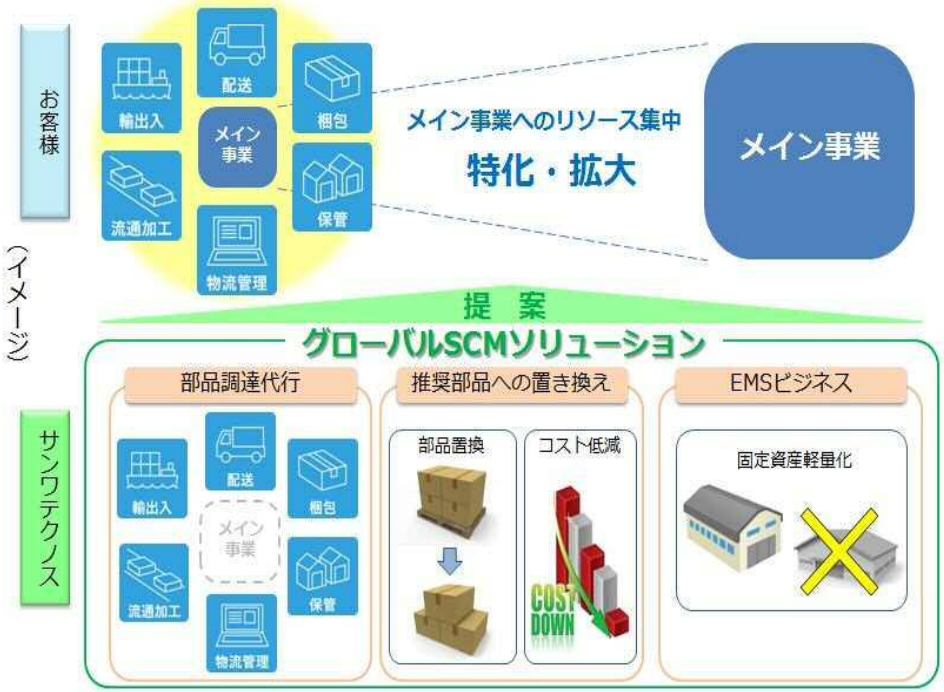
◆家庭用ミシンメーカー用基板実装案件
部材を香港からベトナムへ（OUT-OUT）

◆VMI倉庫（海外・国内）運用案件
顧客の在庫をVMI運用へ切替
(IN-OUT)(OUT-IN)

香港国際物流センターをはじめとした海外25拠点のグローバルネットワークを活かして、優れた商品の情報展開と現地密着サポートを実施致します。



取り組み（例）



成長市場をターゲットにした商談

	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期 以降
分野	実績	実績	商談中
新エネルギー	約 ７８億円	約 ４５億円	約 ３４億円
省力化	約 ３０億円	約 ６６億円	約１３９億円
介護・医療	約 １１億円	約 １４億円	約 ２３億円
社会インフラ	約 ８億円	約 １０億円	約 ２３億円
合計	約 １２７億円	約 １３５億円	**約 ２１９億円**

商談事例

・微小電子部品向け巻き線機からの取出しパレタイズロボット
・有機EL製造装置用真空ロボット
・真空蒸着装置搭載クリーンロボット
・有機EL成膜装置の小型化、工数削減
・マウンタ次機種向け光データ伝送システム

以上のように、高い成長性・収益性・安定性を求めて、経営に努力してまいりますので、今後も一層のご支援を賜りたくお願い申し上げます。